



中部管内 県民総ぐるみ「地域・学校づくりのつどい」を開催しました！

8月7日(水)に県民総ぐるみ「地域・学校づくりのつどい」を開催し、CSとCAの一体的推進をテーマに、メイン会場とサテライト会場にて、講話、実践発表、対話を行いました。当日は、約600名を超える方々(各学校の教職員、学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進委員、社会教育関係団体、各市町村教育委員会関係者)にご参加いただきました。

講話では、「目的・目標を学校と地域が共有して活動することが大切であること。そのためには体制づくりが必要であり、参加するひとりひとりがキーパーソンとなって自分事として捉えることが大切であること」をお話していただきました。実践発表では、都農町教育委員会から、行政として組織づくりを行い、一体的推進を行うことで、学校も地域も元気になる好循環が生まれること、都農南小学校から学校運営協議会で熟議したことを実践につなげた例(伝統芸能伝承・中庭再生)を発表していただきました。対話では、パネリストの方々からのご意見をもとに「地域と学校を誰がつなぐのか」、「何のために取り組むのか」を柱に協議を行いました。

参加された方々からは、「次回の学校運営協議会に向けての意欲づけになりました。学校や地域の課題を共有しながら地域で子どもたちが成長できる環境を作っていきたいと思います。」「学校運営協議会の魅力が伝わり、子どもも地域も幸せに繋がると勇気づけられました。」「キーワードをたくさんいただきました。『子どもたちのため』『WinWin』等々。本日はとても頼もしい本校の学校運営協議会の方々と参加しました。今後の熟議が『いこり』そうです。」等の感想をいただきました。(※『いこり』:講師の方が講話で紹介された言葉。炭に赤々と火がついた状態のこと。こればその火が周りに点火していき、そう簡単には消えず持続可能な状態となる。いこりところにはよい情報・仕事・出会い等が巡っている。)今後の学校運営協議会での熱心な取組に向けた機運を高めることになったのではないのでしょうか。御参加ありがとうございました。

※地域と学校の連携・協働の推進についての参考資料を「みやざき学び応援ネット」に掲載しています



みやざき学び
応援ネット
掲載サイト
お持ちの携帯からも
情報をご覧いただけます。



○○○の秋と言えば？



異常気象等により季節の感覚が少しずれているようにも感じますが、暦上、8月初旬からの四季は「秋」と言われます。秋と言えば、食欲の秋、芸術の秋、スポーツの秋、読書の秋など様々なことが思い出されます。そんな中、9月号絆では、「芸術の秋」について触れたいと思います。

「芸術の秋」という言葉の由来は、文芸誌『新潮』に記載された「美術の秋」という言葉が由来と言われています。また、秋は、紅葉で色彩が豊かになること、そして過ごしやすい気候になって芸術を楽しむ余裕もできることにより、芸術活動が盛んになるとされています。

教育においても、芸術鑑賞により、創造性を養う力が育成されるとも言われています。

新たなアイデアの創出や心のリフレッシュを目的として、芸術に触れてみてはいかがでしょうか。



夏休み明け 体調はいかがですか？

毎年9月は、厚生労働省が「健康増進普及月間」と定めています。厚生労働省の健康に関する調査によると運動習慣や睡眠時間など、課題となっている項目はまだ多いようです。

今できることを国の平均データから考えてみると・・・

生活習慣病の予防には、男性では9000歩、女性では8000歩が目安と言われており、足りない歩数は平均であと1000歩。時間にして10分程度多く歩くだけで十分に効果があります。

実は日本人はけっこう野菜を食べている様です。すでに毎日約280gの野菜を食べているので、あと70gだけ足りません。トマトなら半分。野菜炒めなら半皿分。わずかしい量ではありません。

また、最近では夏から秋にかけて、気温や湿度の変化に順応できずに体調をくずす「秋バテ」という言葉もあるようです。今できることから無理なく、体調を整えていきましょう。